

全日制・定時制課程の高等学校における遠隔教育の実施状況

都道府県等	設置者	学校名	課程	開始年度	実施科目	単位数	受信側の体制	配信側学校名	実施に際し課題と思われる点、工夫した点
北海道	北海道	北海道蘭越高等学校	全	H27	数学 I	4	担当教員 1 名	北海道倶知安高等学校（教員に兼務発令）	<ul style="list-style-type: none"> ・配信側の教員が個々の生徒の理解度を把握するために、受信校との連携方法に工夫が必要である。 ・多様な生徒が在籍していることから、きめ細かな個別指導することが必要である。 ・受信側と配信側の学校で連絡を密に取り、目標を明確にして効率的に授業を行った。 ・毎時間ワークシートを作成し、自己評価や感想を記入させて、理解度を把握する材料とした。
			全	H27	数学B	2	担当教員 1 名		
			全	H27	古典A	2	担当教員 1 名		
		北海道寿都高等学校	全	H27	数学 II	2	担当教員 1 名	北海道岩内高等学校（教員に兼務発令）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいや評価規準などが、受信校の生徒の実態に即したものとなっているか、配信校の教員との十分な連携が必要である。 ・個に応じた指導の充実を図るため、ワークシート等の様々な教材を準備・活用することが必要である。 ・授業のねらいや教師の指示を生徒に正確に伝えるため、ワークシートに板書事項の一部を記載するなど工夫した。 ・生徒の学習状況をきめ細かく把握するため、毎回、授業後に配信校側の教員と打合せを行った。
			全	H27	数学B	2	担当教員 1 名		
			全	H27	数学研究	2	担当教員 1 名		
		北海道厚真高等学校	全	H27	コミュニケーション英語 I	2	担当教員 1 名	北海道苫小牧東高等学校（教員に兼務発令）	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔教育の特性を活かした学習指導の工夫が必要である。 ・配信校、受信校の教員でチームティーチングや習熟度別授業を行う機会が増えると効果的であるが、教員数、教育課程の編成及び時間割の関係上、実施が難しい。 ・生徒の興味や関心を高めるため、画像やフリップ等の視聴覚教材を活用した。 ・授業のねらいや教師の指示を生徒に正確に伝えるため、ワークシートを有効に活用した。
			全	H27	英語会話	2	担当教員 1 名		
			全	H27	現代文B	4	担当教員 1 名		
		北海道穂別高等学校	全	H27	音楽 I	2	担当教員 1 名	北海道苫小牧西高等学校（教員に兼務発令）	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔教育が一部の教科に限られており、今後は、他の教科にも広げていくことが必要である。 ・遠隔授業の充実に向け、配信校、受信校の教員が日常的に連携を図った。 ・生徒の興味や関心を高めるため、画像やフリップ等の視聴覚教材を活用した。
			全	H27	音楽 II	2	担当教員 1 名		
			全	H27	音楽 III	2	担当教員 1 名		

北海道	北海道	北海道虻田高等学校	全	H27	数学 I	2	担当教員 1 名	北海道伊達高等学校 (教員に兼務発令)	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔教育の特性を活かした学習指導の工夫が必要である。 ・実習等において細かい作業を行う際、生徒の状況を把握するため、受信校にハンディカメラ等の機材があると効果的である。 ・生徒の興味や関心を高めるため、画像やフリップ等の視聴覚教材を活用した。 ・授業のねらいや教師の指示を生徒に正確に伝えるため、ワークシートを有効に活用した。 	
			全	H27	体育	2	担当教員 1 名			
			全	H27	音楽 I	2	担当教員 1 名			
			全	H27	家庭基礎	2	担当教員 1 名			
	北海道	北海道	北海道平取高等学校	全	H27	生物	4	担当教員 1 名	北海道静内高等学校 (教員に兼務発令)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいや評価規準等が、受信校の生徒の実態に即したものとなっているか、受信校の教員との十分な連携が必要である。 ・授業後、生徒の質問等に対応できるようワークシートの工夫や放課後の時間を活用するなど、授業を配信する教員との十分な連携が必要である。 ・生徒の学習状況をきめ細かく把握するため、毎回、授業後に受信校側の教員と打合せを行った。 ・生徒の興味関心を高める遠隔教育とするためにパワーポイントを効果的に活用した。
				全	H27	コミュニケーション英語 I	4	担当教員 1 名		
	北海道	北海道	北海道南茅部高等学校	全	H27	音楽 I	2	担当教員 1 名	北海道函館中部高等学校 (教員に兼務発令)	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔教育の特性を生かした学習指導案の作成や指導の工夫が必要である。 ・個に応じた指導の充実を図るため、ワークシート等の様々な教材を準備・活用することが必要である。 ・生徒の興味関心を高める遠隔教育とするために、パワーポイントや動画を効果的に活用した。 ・授業のねらいや教師の指示を生徒に正確に伝えるために、ワークシートに板書事項の一部を記載するなど工夫した。
				全	H27	英語表現 I	2	担当教員 1 名		
				全	H27	コミュニケーション英語 II	2	担当教員 1 名		
				全	H27	英語会話	2	担当教員 1 名		
	北海道	北海道	北海道長万部高等学校	全	H28	情報処理	4	担当教員 1 名	北海道八雲高等学校 (教員に兼務発令)	<ul style="list-style-type: none"> ・音声少し遅れて受信校に届くことから、音楽の授業においては、伴奏に合わせて歌唱させる指導に工夫が必要である。 ・遠隔教育の特長を生かした授業内容や授業展開にするなど、工夫が必要である。 ・配信・受信双方の教員が、授業の進め方について、事前に綿密な打合せを行った。 ・生徒の興味・関心を高めるため、パワーポイントやワークシート、実技の投影など教材を工夫した。
				全	H28	音楽 I	2	担当教員 1 名		
	北海道	北海道	北海道下川商業高等学校	全	H27	科学と人間生活	2	担当教員 1 名	北海道士別翔雲高等学校 (教員に兼務発令)	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔教育の特性を考慮し、受信校の教員と連携した生徒一人一人への指導の工夫改善が必要である。 ・受信側の教員を配置するための時間割を工夫したり、準備や片付けに時間をかけないような手立てが必要である。 ・生徒に分かりやすい遠隔教育にするため、カメラワークやワークシートの使用について工夫した。 ・実際の対面授業に近くなるよう大型プロジェクターを活用し、生徒が見やすくなるよう工夫した。
				全	H27	生物基礎	2	担当教員 1 名		
				全	H27	化学基礎	2	担当教員 1 名		
				全	H27	家庭基礎	2	担当教員 1 名		

北海道	北海道	北海道美深高等学校	全	H27	数学Ⅱ	2	担当教員 1 名	北海道名寄高等学校（教員に兼務発令）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を理解できていない生徒に寄り添った指導ができるよう受信校側の教員と効果的に連携することが必要である。 ・音声のタイムラグやスピーカーの音割れがあることがある。 ・より分かりやすい授業とするために、授業後などに配信校と受信校の教員が、生徒の授業の理解度を確認するなど、生徒の学習状況を共有するようにした。 ・家庭科の授業において、パソコン等のICTを活用し、生徒の興味・関心を高めた。
			全	H27	家庭基礎	2	担当教員 1 名		
			全	H27	社会と情報	2	担当教員 1 名		
		北海道苫前商業高等学校	全	H27	世界史A	2	担当教員 1 名	北海道留萌高等学校（教員に兼務発令）	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムラグにより配信校側の音声聞き取りにくい場面があったことから、発言の際に言葉を適宜区切るなど、受信校側の環境に配慮することが必要である。 ・教室後方からは画面が見にくい場面もあることから、座席の配置や提示する教材等を工夫することが必要である。 ・効果的に指導できるよう、事前に配信校と受信校が連携し、個々の生徒の学習状況について把握を行った。 ・授業のねらいを生徒に浸透させ、学習内容をより深く理解させるため、ワークシート教材を活用した。
			全	H27	日本史A	2	担当教員 1 名		
			全	H27	政治経済	2	担当教員 1 名		
			全	H27	現代社会	2	担当教員 1 名		
		北海道豊富高等学校	全	H27	コミュニケーション英語Ⅰ	1	担当教員 1 名	北海道稚内高等学校（教員に兼務発令）	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽は実技を伴うことから、適切な指導と評価を実施するために、授業を配信する教員と十分に打合せを行うことが必要である。 ・生徒の学習状況をきめ細かく把握するため、配信校側と受信校側の教員で打合せを行った。 ・生徒の興味関心を高める遠隔教育とするために、動画を活用するなどの工夫を行った。
			全	H27	コミュニケーション英語Ⅱ	1	担当教員 1 名		
			全	H27	時事英語	2	担当教員 1 名		
			全	H27	音楽Ⅰ	2	担当教員 1 名		
		北海道常呂高等学校	全	H27	音楽Ⅰ	2	担当教員 1 名	北海道北見北斗高等学校（教員に兼務発令）	<ul style="list-style-type: none"> ・配信校側にも遠隔教育専用教室を設けるなど環境整備が必要である。 ・配信校が複数の場合は時間割調整等の十分な連携が必要である。 ・実習・実技以外の部分を中心に、遠隔教育の特性を生かした授業展開を行うなどの工夫が必要である。 ・配信校側が見る画面に受講する全生徒が収まるよう机の配置を扇形にする等の工夫を行った。
			全	H27	家庭基礎	2	担当教員 1 名		
		北海道清里高等学校	全	H27	現代文A	2	担当教員 1 名	北海道網走南ヶ丘高等学校（教員に兼務発令）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいや評価規準等が、受信校の生徒の実態に即したものになっているかどうか、受信校側の教員と十分な連携を図る必要がある。 ・対面による指導ではない分、通常よりも教材作成に時間をかける必要がある。 ・当日授業で使用するワークシートを配信校と受信校の両方の教員で事前に確認することや、授業の際に同じ教科の教員が受信校側の教員として生徒の学習の補助を行うようにすること等の工夫を行った。
			全	H27	古典A	2	担当教員 1 名		
			全	H27	数学A	2	担当教員 1 名		
			全	H27	数学B	2	担当教員 1 名		

北海道	北海道	北海道興部高等学校	全	H27	数学B	3	担当教員1名	北海道紋別高等学校(教員に兼務発令)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習実態に応じて、適切な学習課題を与えるために、評価アンケート等を実施するなど工夫が必要である。 前の授業の最後に予告をしたり、課題を配付したりすることで、生徒が先に学習目標等を把握した状態で、当日の遠隔教育の授業に臨めるように工夫を行った。 	
			全	H27	発展数学I	3	担当教員1名			
			全	H27	音楽I	2	担当教員1名			
		北海道津別高等学校	全	H27	数学II	4	担当教員1名	北海道美幌高等学校(教員に兼務発令)	<ul style="list-style-type: none"> 受信校側の教員が当該教科の免許状を有しない場合にも、適切な指導と評価を実施するために、受信校側の教員との十分な連携が必要である。 カメラ1台で生徒の状況を配信校側に見やすくなるように送信するため、機器の設置方法等を工夫した。 	
			全	H27	英語会話	4	担当教員1名			
		北海道佐呂間高等学校	全	H27	地理A	2	担当教員1名	北海道北見柏陽高等学校(教員に兼務発令)	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導の充実を図るために、ワークシートの活用などの工夫が必要である。 配信校側が見る画面に受講する全生徒が収まるよう机の配置を扇形にするなど工夫した。 	
			全	H27	実用英語	2	担当教員1名			
			全	H27	コミュニケーション英語II	3	担当教員1名			
		北海道阿寒高等学校	全	H27	生物基礎	2	担当教員1名	北海道釧路湖陵高等学校(教員に兼務発令)	<ul style="list-style-type: none"> 受信校と配信校間で、時程や学校行事の日程が異なるため、遠隔教育に関する打合せの時間を効率的に確保することが必要である。 受信校は1人1教科のため、教師の資質向上に向けて、配信校の教員と協力した授業準備やITなどを行った。 	
	全		H27	科学と人間生活	2	担当教員1名				
	全		H27	理科課題研究	2	担当教員1名				
	長野県	佐久市	佐久平総合技術高等学校	全	H27	2年農業科 草花技術コース「草花」	2	担当教員2名以上	佐久平総合技術高等学校臼田キャンパス	臼田キャンパスからデザインの授業を浅間キャンパスで受信。
				全	H27	3年機械システム科 創造実践科「課題研究」	3	担当教員2名以上	佐久平総合技術高等学校	双方向で配信受信を取り入れた授業を実施。製作者、デザイナーの視点から作品について意見を述べ合う。
				全	H27	3年農業科 草花技術コース「生物活用」と創造実践科「造園計画」	2	担当教員2名以上	佐久平総合技術高等学校臼田キャンパス	学科連携授業。「正月飾りの製作」をテーマに臼田キャンパスでの講義内容を浅間キャンパスへも配信。
				全	H27	農業科3年 野菜技術コース「野菜」と創造実践科2年「農業と環境」	2	担当教員2名以上	佐久平総合技術高等学校浅間キャンパス	浅間キャンパスから信州大学教授の講義を臼田キャンパスへも配信。
全				H27	3年農業科 創造実践科「食品製造」	2	担当教員2名以上	佐久平総合技術高等学校浅間キャンパス	学科連携授業。「味噌の食味検査」をテーマに浅間キャンパスでの講義内容を臼田キャンパスへも配信。	
全				H27	農業科1年「産業基礎」と創造実践科1年「産業社会と人間」	2	担当教員2名以上	佐久平総合技術高等学校臼田キャンパス	臼田キャンパスからのキャリア教育に関する講演会を浅間キャンパスにも配信。	

愛知県	愛知県	西春高等学校	全	H28	音楽 I	2	担当教員 1 名	西春高等学校	双方向型の環境となるよう必要な設備を整備した。
徳島県	徳島県	海部高等学校	全	H28	地理 B	3	担当教員 1 名	総合教育センター (教員に兼務発令)	配信側、受信側の教員の連携のため、授業前後に打ち合わせ等を実施。 学習評価シート(授業者用・補助者用・生徒用)を作成。
長崎県	長崎県	豊玉高等学校	全	H27	音楽 I	2	担当教員 1 名	対馬高等学校 (教員に兼務発令)	【課題】通信環境、機材準備、操作スキル、受信校担当教員の負担、双方向授業への対応、著作権の処理
					家庭基礎	2	担当教員 1 名	対馬高等学校 (教員に兼務発令)	【課題】通信環境、機材準備、操作スキル、受信校担当教員の負担
		上対馬高等学校	全	H27	論理コミュニケーション	1	担当教員 2 名以上	日本論理コミュニケーション技術振興センター (上対馬高校非常勤講師発令)	【課題】講師謝金、機材準備 【工夫】評価は上対馬高校職員
兵庫県	摺河学園	兵庫県播磨高等学校	全	H27	京大知的好奇心学	1	担当教員 2 名以上	関西教育考学 (京大教授、大学院生による有限会社)	京都のスタジオから専用回線を使い、京都大学の教授、大学院生を講師陣に、本講教員とのチームティーチングで実施している。